

利用者の役に立つ図書館を目指して



亀田 純孝 (かめだ よしたか)

山口県下関市出身。ニックネームは「かめちゃん」。2020年に鳥取大学地域学部地域文化学科を卒業後、長万部町地域おこし協力隊に地域文化推進員として着任。図書館事業を中心に文化イベントに携わる傍ら、空手道と合気道の経験を活かして体験会を行うなど体育教育事業も実施している。

【本州の端から北海道へ】

大学を卒業する年になるまで、まさか自分が北海道で働くとは思ってもみませんでした。

本州の最西端である山口県下関市で生まれ育ち、北海道は「高校の修学旅行」と「友人との旅行」で訪れた2回のみ。

そんな私が北海道長万部町で協力隊として活動するようになったきっかけは、大学時代の先生の紹介でした。この先生が、協力隊担当課の職員と知り合いだったことにより、協力隊を募集しているという連絡を受けて私に声をかけてくださいました。

当時、卒業後の進路も決まっていなかった私は「これも何かの縁かな」と、卒業前に長万部町へ視察に行くことにしました。この視察が協力隊着任の一番の要

因となりました。親切に町の案内をしてくださった担当課の皆様と、元々読書が好きだった私にとってやりがいのあるような職場（「長万部町学習文化センター」という図書館と文化ホールの複合施設）、都会ほど賑やかではないが生活に困りそうにはない町の雰囲気などから長万部町を気に入り、視察をした月の終わりには応募を決め、着任させていただく運びとなりました。

【“かめちゃん”の活動】

1年目の目標はとにかく慣れることでした。図書館業務に慣れるために積極的にカウンターに立ち、常連さんの顔と名前と本の好みを覚えられるよう努めました。役場職員や協力隊の先輩に町のキーマンを紹介してもらい、社会福祉協議会の集まりにも参加させていただきました。また、図書館を拠点に協力隊OGが主催する小中学生向けの放課後体験教室、「放課後みつけクラブ」にもスタッフとして参加させていただきました。折り悪く、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大してきた時期でしたが、おかげさまで1年目の終わりには、小学生には「かめちゃん」呼びが定着して図書館に来てくれる子どもたちも増え、町民からも「広報の記事読んだよ」などと声をかけてもらえることが多くなりました。

また、協力隊の活動予算を使用し、通信教育で「司書」（図書館の専門職員の資格）やレクリエーションインストラクターの資格取得に向けて受講を始めました。

2年目からは自分で企画した事業を実施しました。主な目的は図書館の活用推進です。具体的には町内の湿原について研究されている方々と共同で資料を作成・展示した「静狩湿原展」、本の執筆者等を招いて



静狩湿原展の展示資料作成の様子

講演を行う「オーサービジット」、そして町民からご要望をいただいて札幌から同門の先生をお招きし「合気道体験会」を実施しました。

これらの企画による図書館利用者の目に見えた増加はありませんでしたが、町民以外にも研究者とのつながりを得ることができました。また、図書館の常連やみつけクラブの参加者とその保護者など、「かめちゃん」の事業に興味を持って参加してくださる方の発見も大きな成果でした。

3年目は2年目の事業を卒業後も継続することを目標として、「オーサービジット」と「静狩湿原展」を企画しました。また、今回もご要望をいただいたため、「合気道体験会」を「合気道・空手道体験会」として継続、更に図書館利用者とのお話しやレファレンスサービス（利用者の質問に図書館資料等を利用して答えるサービス）の内容から、町の歴史について興味を持っている人が多いと思い、過去の長万部町の空中写真（上空から撮影した町を俯瞰する写真）を拡大して展示しました。

特に「合気道・空手道体験会」ではテレビの影響を実感しました。体験会をローカルニュースで取り上げていただいた結果、これまで挨拶するだけだった図書館利用者から「ニュースで見ましたよ」と声をかけていただくことが多々ありました。自分の活動を知っていただき、それをきっかけに話しかけていただけたことはとても嬉しかったです。3年目とはいえ、まだまだ私が知らない町民も、私を知らない町民も多いので、今後とも積極的に広報活動を行っていきたいと思います。



合気道・空手道体験会の様子

また、3年目からは図書館業務で新刊の選書を任せられるようになりました。ジャンルの偏りが無いように、情報の劣化が遅い資料を選ぶように心がけています。現在の図書館利用者が好みそうな本、図書館にあれば役に立ちそうな本、現在図書館を利用していない層が惹きつけられそうな本、これらのバランスを取りながら予算内で購入するのは難しいですが、新刊の情報を見るのは面白いですし、選んだ本が貸し出された時など思わずニヤリとしてしまいます。

【活動を通して】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応や町民との交流の機会の減少はもちろんですが、1番困ったことは自分の社会人としての常識の乏しさです。新卒での着任ということもあり、いわゆる「報連相」の習慣やメール・書類づくりにおける日本語の使い方などで、役場の担当職員をはじめ方々にご迷惑をおかけしてしまいました。また、公務員的な考え方や予算のシステムなども分からないことが多く、予習不足を実感しました。

件数は少ないですが、図書館でレファレンスサービスに対応することがありました。館内の資料の把握や利用者の要求を正確に聞き出すテクニックなど、足りないものはまだまだありますが、目的の資料にたどり着き、利用者に喜んでもらえることにとてもやりがいを感じます。直近では検索技術者検定3級の資格を取得するなど、利用者の質問に対して「ありません」「わかりません」という対応をなるべくしないことを心がけています。

【協力隊としての目標と図書館職員としての目標】

私の協力隊としての目標は、長万部町図書館の司書として採用されることです。今年度が3年目で最後の年なので、思い残しのないよう頑張っていきたいと思っています。今後とも、長万部町に長万部町図書館は必要な施設だと思ってもらえるよう取り組んでいきたいです。具体的には、レファレンスサービスの強化など役に立つ図書館を目指すとともに、読み聞かせなどを通して子どもの図書館ファンを増やしていけたらと考えています。